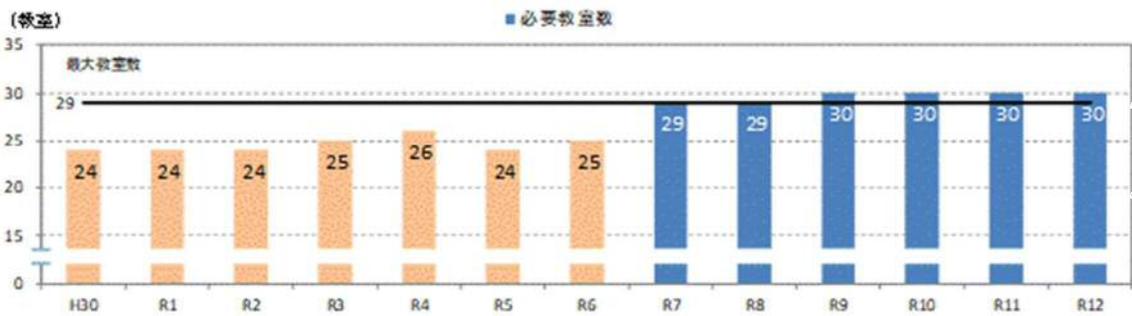


報告書の見方

児童生徒数の推移のグラフです。
縦軸が児童生徒数、横軸が年度になります。
①：実線が今回の推計値、②：破線が前回の推計値です。



学年		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
児童数	1学年(人)	152	122	123	147	155	143	151	149	148	165	155	148	162
	2学年	122	148	123	123	145	134	143	144	151	150	165	158	149
	3学年	137	123	150	124	122	126	141	147	145	151	151	165	158
	4学年	139	134	125	152	126	112	125	144	146	144	150	150	164
	5学年	116	137	134	125	156	126	114	130	144	146	146	150	151
	6学年	126	118	139	136	126	155	126	141	130	145	147	147	151
	合計	792	782	794	807	830	796	800	855	864	901	914	918	935
必要教室数	1学年(クラス)	5	4	4	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5
	2学年	4	5	4	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5
	3学年	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
	4学年	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
	5学年	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
	6学年	4	3	4	4	4	4	4	5	4	5	5	5	5
	合計	24	24	24	25	26	24	25	29	29	30	30	30	30
利用可能な教室数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
教室過不足	+5	+5	+5	+4	+3	+5	+4	0	0	▲1	▲1	▲1	▲1	

利用可能教室数と各年度のクラス数(学級数)との比較のグラフです。
縦軸が教室数、横軸が年度になります。
③：黒の実線は、普通教室として利用可能な教室数です。
④：棒グラフは、その年度のクラス数です。
例) R6年度は、利用可能教室数29に対し、25クラスとなります。

学年ごとの児童生徒数及びクラス数(学級数)の推移の表です。

⑤：学年ごとの児童生徒数です。合計は①と一致します。

⑥：⑤に対応する学年ごとのクラス数です。合計は④(棒グラフの値)と一致します。

合計が、「適正規模及び適正配置に関する基本方針」の適正規模の基準に照らし、大規模校の区分に該当する場合は「黄色」、小規模校の区分に該当する場合は「緑色」で表示しています。

また、40人学級で算出されている箇所を「水色」で表示しています。

⑦：⑥のクラス数に対し、利用可能教室数との過不足を表しています。